

2/19開催

Mirai
プロジェクト
とは？

学生×地元企業×樋口雄一市長

Miraiプロジェクト活動発表

学生と地元企業が協働し課題解決を行うプロジェクト。市内大学を中心に平成28年から実施し、令和7年度は34のプロジェクトが行われ、当日はこのうち3つが発表を行いました。



意見交換会
のテーマ

A▶プロジェクトを選んだ理由と感想 B▶甲府で働くことについて C▶働きがいのある会社の取り組みについて
※A, Bは学生へ、Cは企業への質問事項

Project 1

地域における「障がい」を解決！
誰もが主役になれる社会を
目指して



左から 小林実鈴さん(山梨県立大学) 松原美咲さん(KEIPE株式会社) 澤飯柚月さん(山梨県立大学)

【活動の概要】

地域社会には多様な人々が暮らしているが、まだ誰もが主役になれるとは言えない。私たちはこの課題に向き合い、解決への糸口を探った。

A (学生)

「誰もが主役になれる社会」というワードに惹かれた。実際に活動していく中で自分自身が目指していきたい「地域の誰もが主役になれる」具体的な社会像が見えた気がした。

B (学生)

山梨は雨や雪が少ないので、公共交通機関の貸し出し自転車や電動キックボードなどがあればいいと思った。

C (地元企業)

一人一人が強みやキャリアビジョンに合わせた役割と責任を持ち、権限を持って仕事を進める体制をとり会社の理念と個人の理念が重なる「共感設定」を大事にしている。

Project 2

最期の時まで、安心して、
気持ちよく、トイレで排泄できる
環境を考える



左から 保坂邦男さん(社団法人いきいき倶楽部) 石倉彩乃さん(山梨県立大学) 相佐亜希さん(山梨県立大学) 赤池大輝さん(山梨大学)

【活動の概要】

介護施設の現状分析の結果、現在の排泄環境には大きな課題があることがわかり、リラックスでき、安全でけがのリスクの少ないトイレの設備や環境の提案を行った。

A (学生)

自分の専門に結びつくと考え、選んだ。介護は大変なイメージがあり、多くを占めているのがトイレでは？そこが改善できれば介護業界が変わると思う。

B (学生)

バスなど交通インフラが整うと働きやすく、生活しやすくなり、学生や高齢者も生活しやすいようになると思う。

C (地元企業)

「どうすればやりがいを持てるか」を会社として常に考えている。職員が新しいことにチャレンジできる環境を整え、その成果をしっかり認める職場づくりを大切にしている。

Project 3

D-STUDIO
～山梨を取材ラジオで
発信しよう～



左から 中島正史さん(株式会社エフエム富士) 小林優日さん(山梨県立大学) 栗藤瑛大さん(山梨大学)

【活動の概要】

大学生ならではの視点からテーマを設定し、山梨県内の企業の取り組みを取材し、発信した。

A (学生)

社会人になる前にメディアでの情報発信のプロジェクトの経験をしたかった。甲府からラジオで発信できたことが、大きなやりがいになったと感じている。

B (学生)

山梨はメディアが発信する場所が少ない気がする。もっとメディアでの交流が活発な街になればいいと思う。

C (地元企業)

社員を肩書で呼ばないなどフラットな関係性を構築している。若い感性やアイデアが不可欠であると考え、若手の意見を吸い上げやすい体制づくりに注力している。



甲府市長 樋口雄一

学生の皆さんが企業の現場で「自主性」や「他者への共感」を持って活動したことは、将来のキャリアにおいて大きな財産となります。いただいた公共交通や街づくりへの貴重な提案は、今後の市政の参考とさせていただきます。

「他者の視点に立つ」という、社会人として最も重要な姿勢が各プロジェクトを通じて養われていました。大学の多い甲府の強みを活かし、今後も企業と学生の横の繋がりを強化していくことが期待されます。



コーディネーター 杉山 歩さん
山梨大学地域人材養成センター特任教授
山梨県立大学副学長、地域人材養成センター長、教授